

道の駅と大学による連携企画

松山河川国道事務所 道路管理第二課 鎌倉 佳大
松山河川国道事務所 道路管理第二課長 大谷 昭人
松山河川国道事務所 道路管理第二課 團上 量久

近年、「道の駅」では、農業・観光・福祉・防災・文化など地域の個性を活かした様々な取り組みがなされている。また、「道の駅」と大学の連携による新たな価値の創出や地域活力の創出も期待されており、平成29年度には、全国の「道の駅」61駅で大学との連携が進められている。松山河川国道事務所管内においても、平成29年から「道の駅」風早の郷風和里と愛媛大学による産学連携の取り組みが行われている。

本稿では、「道の駅」風早の郷風和里におけるこれまでの取り組みとその成果を報告する。

キーワード 道の駅、大学、産学連携、地域活性化

1. はじめに

道の駅とは、主に市町村が設置し国土交通省が登録する道路休憩施設であり、「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」「地域の振興に寄与」を目的として「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」が備えられた施設である。

平成5年の制度創設から現在までに1,000を超える道の駅が登録されている。

道の駅は当初、道路利用者へのサービスが中心であったが、近年は、農業・観光・福祉・防災・文化など、地域の個性、魅力を活かした様々な取り組みがなされており、今後は「地域の拠点機能の強化」や「ネットワーク化」をキーワードに「道の駅」自体が目的化されるような取り組みが期待されている。

休憩機能	24時間利用可能な駐車場・トイレ
情報発信機能	道路情報、地域観光情報、緊急医療情報の提供
地域連携機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

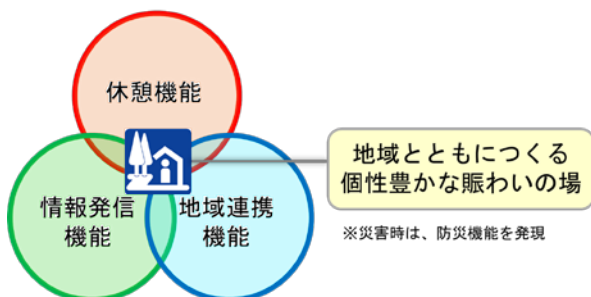


図-1 道の駅の基本コンセプト

2. 産学連携のメリット

前述のとおり、地域の資源や魅力が集まる道の駅は、地域の課題解決や活力創出の場としての可能性を持っている。

そうした中、近年、国土交通省では全国各地で道の駅と大学の連携を推進しており、道の駅と大学生の交流により、新たな価値の創造や地方創生、地域づくりを担う人材育成への寄与が期待されている。

また、こうした連携は、「若者視点による資源発掘・イベント企画・SNSスキルを活かした情報発信など若い力を活用できる」、「地域づくりの知識や技術を学ぶための実践フィールドが獲得できる」という道の駅サイドと大学サイドの双方のメリットを土台として、これまで発展してきており、平成29年度には、全国の道の駅61駅で大学との連携（就労体験型実習・連携企画型実習）が行われ様々な成果がでてきている。

本稿では、松山河川国道事務所管内の道の駅風早の郷風和里におけるこれまでの産学連携の取り組みとその成果を報告する。



図-2 道の駅と大学の連携イメージ

3. 「道の駅」風早の郷風和里の特徴等

(1) 「道の駅」風早の郷風和里の特徴

「道の駅」風早の郷風和里は、松山市北条地域に位置し、周囲を山々や瀬戸内海に囲まれた自然豊かな農林水産業の盛んな地域にある。また、松山市と今治市を結ぶ国道 196 号沿いに位置し、JR 大浦駅や北条長浜海岸、北条スポーツセンターなどとも近接していることから、人を呼び込む高いポテンシャルを有する「道の駅」であると言える。

また、地元事業者で結成された「風早の郷ふわり協同組合」が指定管理者として「道の駅」の管理運営を行っており、近年は積極的なイベント開催を通じて、地域の活性化に貢献している状況がある。

(2) 北条地域の課題

北条地域は、古くから「風早」と呼ばれ、中世伊予の豪族である河野氏ゆかりの歴史・文化や、鹿島・高縄山などの豊かな自然に恵まれた地域である。

平野部では米や野菜作りが行われているほか、山あいでは柑橘類の栽培が盛んで、いよかんや温州みかんなどの各種柑橘の産地となっている。

しかし、こうした地域資源の魅力を十分に活かせておらず、地域の中心部も人口の流出により少しずつ賑わいを失いつつあり、市全体と比較すると高齢化も進んでいる。

こうした状況を踏まえ、松山市では、地域資源を磨くとともに地域の抱える課題を解決しながら北条地域の活性化を図るべく、平成 25 年に「松山市風早レトロタウン構想」を策定している。



図-3 道の駅風早の郷風和里の位置図

4. ふわり活性化プロジェクトの全体像

「道の駅」風早の郷風和里では、「ふわり活性化プロジェクト」と題し、平成 29 年から愛媛大学社会共創学部との産学連携の取り組みを開始した。

ふわり活性化プロジェクトは、下図に示すとおり、「道の駅と地域の活性化」という共通の目標に向けて、「道の駅」と大学が連携し、活性化企画の検討・実践に取り組むことを趣旨としており、この連携開始当初から、松山河川国道事務所では支援を行ってきた。

また、愛媛大学社会共創学部は、地域協働を通して課題解決策を企画立案できる人材の育成を理念とする学部であり、実践的思考力・態度・技能の習得のため、地域を舞台とした実践型教育を推進していることから、前述のとおり、この産学連携は道の駅と大学の双方のメリットにより成り立っている。

ふわり活性化プロジェクトでは、これまで「道の駅と地域の活性化」という目標に向けて、段階的な取り組みを行ってきた。第一段階の取り組みとして、連携を始動するにあたり互いを知ることから始め、そのために学生による現地踏査と道の駅活性化方策の提案を行った。第二段階の取り組みとして、両者の関係構築のための試行的連携として、道の駅定例イベントへの学生出店を行った。第三段階の取り組みとして、継続的連携のための仕組みづくりを行った。そして、現在、第四段階の取り組みとして、道の駅の活性化に向けて、道の駅閑散期における新たな連携イベントの企画・実施に取り組んでいる。

具体的な取り組み内容とその成果を次項に示す。

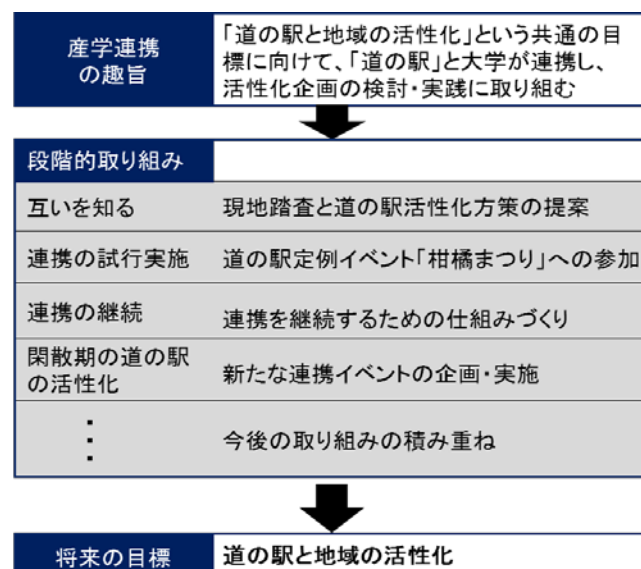


図-4 ふわり活性化プロジェクトの全体像

5. 取り組み内容と成果

(1) 現地踏査と道の駅活性化方策の提案

平成29年5月20日に、学部1～2年生を対象に、「道の駅」風早の郷風和里の現地踏査及び道の駅活性化方策のワークショップを実施した。

現地踏査では、ふわりや隣接する施設を見学し、学生なりの着眼点で現状の把握を行った。また、ワークショップでは、現地踏査を踏まえた道の駅の評価と活性化方策の検討、駅長への発表を実施した。その結果、学生から駅長へ以下のような活性化方策の提案がなされた。

表-1 道の駅活性化方策の提案

1	ゆるキャラコンテストの開催・グッズ化
2	キャンプ道具、BBQ道具の貸し出し
3	電飾を使った砂浜アート
4	バスツアー企画（ふわりでBBQ、こたつ鍋）
5	ふわり周辺のデートスポット化（イルミネーションや天体望遠鏡の設置）
6	サイクリングロードを活用したトライアスロン大会の開催
7	フォトスポットの設置、フォトコンテストの開催



道の駅現地踏査、活性化方策の検討

現地踏査と道の駅活性化方策の提案を通して、「道の駅」の機能や魅力に対する大学サイドの理解が深まったと同時に、道の駅サイドにとっても新たな着眼点による道の駅の評価や活性化方策が得られたことで、学生の持つ柔軟な意見に耳を傾け、連携していくことの有用性を認識する機会となった。

(2) 道の駅定例イベントへの出店

道の駅と大学との関係を深めるための試行的な連携として、学生が道の駅の定例イベントである「柑橘まつり」への出店を行った。

柑橘まつりは、柑橘の旬である2月に毎年開催されているイベントで、多種多様な柑橘の試食や生産者からの直接購入ができるとともに、道の駅からのふるまいや屋台の出店などもある「道の駅」風早の郷風和里の定例イベントである。

これまで、学生は平成29年と平成30年の計2回、柑橘まつりに出店しており、みかん大福やみかん餃子といったスイーツの開発・販売を行った。また、2回目の出店時には、スイーツの販売に加え、みかんの皮を使った足湯の提供や道の駅から利用者へのふるまいを学生がサポートするなど、イベント運営にも貢献した。

その結果、大学と道の駅の両者が柑橘まつりを大いに活気づけることができたことによる連携の手ごたえを感じるとともに、道の駅活性化における産学連携の有用性を道の駅サイドが肌で感じたことで、今後のさらなる連携への機運が高まった。また、この取り組みが多くメディアに取り上げられ、愛媛県内での「道の駅」風早の郷風和里における産学連携の認知度も向上した。



学生が考案したみかん大福、みかん餃子



足湯サービスの提供、当日販売の様子

(3) 継続的連携に向けた仕組みづくり

今後の継続的な連携に向けて、平成31年3月に愛媛大学と道の駅管理者で協議を行った。

協議では、道の駅周辺地域がイベントを通じて盛り上がりを見せている点、5～6月の閑散期における道の駅の活性化が課題であるという点を踏まえ、今後は閑散期における連携イベントの企画・実践を継続的に取り組んでいくこととなった。

なお、連携イベントは学部1～2年生が中心に携わり、大学講義の枠を用いて企画の検討・準備・実践を毎年継続して取り組んでいくこととなった。

(4) 新規の連携イベントの企画・実施

現在は、前述した閑散期を迎える道の駅の活性化を目的に、同時期収穫期を迎える地元農産物「玉ねぎ」を活用した新たな連携イベントを企画している。

イベント実施に向けて、今年4月に学生による企画考案を行い、5月には道の駅や地元農家との企画発表会、玉ねぎ収穫体験、玉ねぎを用いた商品開発など

を行った。

また、イベント開催は6月下旬に予定しており、当日は玉ねぎを使った学生考案のプリンやスムージー、バーガー、串焼きを販売し、道の駅の活性化や利用者との交流を目指す。さらに、この取り組みでは、道の駅の活性化はもとより、地元で収穫期を迎える「玉ねぎ」を活用することで地元農業の活性化に寄与することも期待される。



6. ふわり活性化プロジェクトの成果

今年の5月で3年目を迎える「ふわり活性化プロジェクト」は、これまでの取り組みを積み重ねることで、「道の駅」と大学の連携関係を深めることができた。

最近では、道の駅サイドから地域の高齢化に伴う集荷・集配システムの構築や道の駅を拠点とした農林水産の活性化など、道の駅や地域の様々な課題解決に向けて本格的な連携を行いたいとの要望が上がってきている。

また、柑橘まつりで交流した地域住民の方からの提案により、県内の森林管理業者や地元の大工職人などと大学が連携して「地元の檜を使った足湯桶」の製作が行われることとなった。このように、道の駅と大学の連携を通じて、地域を含めた連携の輪が自発的に広がりを見せている。

7. 今後の課題と展望

今後の道の駅と大学の連携においては、前述のとおり、道の駅や地域の課題解決に向けた様々な連携が期待されている一方、これまで大学講義の中で取

り組んできたイベント中心の連携では対応することができない課題も発生してくると思われる。

現在は、愛媛大学サイドの関係者として、まちづくり分野の学識を持つ教員1名や志を持つ学生達との連携に取り組んでいるが、道の駅や地域の多岐に渡る課題の解決に向けては、それぞれの分野に応じた専門の教員や学生達とのマッチングが必要になる。

こうした状況を踏まえ、今後も、講義と連動したこれまでのイベント連携を継続し続けるとともに、道の駅や地域の様々な課題をどのように大学と共有し、各種の課題解決に適切な産学連携のパートナー（教員、学生）をどのように「道の駅」へ繋いでいくか、道の駅と大学の連携の在り方についての検討が必要になると考えられる。

また、今後も連携を継続していく中で、「道の駅や地域の活性化」という目標達成のストーリー（将来の道の駅や地域の姿、段階的取り組み、スケジュール）を作り共有していくことも、「産学連携を行うこと」が目的化してしまい、活動が形骸化されないためには重要であると考ええる。

8. おわりに

松山河川国道事務所としては、今後も、「道の駅」風早の郷風和里における産学連携の本格展開を支援し、「道の駅」と大学の自立的連携、「道の駅」と地域の活性化に繋げていく。

また、こうした支援を通じて、松山河川国道事務所内においても産学連携のノウハウや課題を蓄積し、「道の駅」風早の郷風和里を先駆的事例として、管内のその他の「道の駅」における産学連携の水平展開に取り組んでいく。

参考文献

- 1) 国土交通省 HP,道の駅案内,
<http://www.mlit.go.jp/road/Michi-no-Eki/outline.html>,
- 2) 国土交通省 HP,「道の駅」による地方創生拠点の形成
http://www.mlit.go.jp/report/press/road01_hh_000439.html
- 3) 松山市,「松山市風早レトロタウン構想～昭和の賑わいを求めて～」,平成 25 年 3 月